

**第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第13回競技運営専門委員会 議事録（概要）**

1 日 時

令和4年（2022年）7月15日（金） 14時00分～15時00分

2 場 所

滋賀県大津合同庁舎7階 7-C会議室

3 出席者

（1）委員（五十音順、敬称略）

伊勢坊 美喜、浮田 豊史、岡本 直輝、加藤 加織、坂下 和子、澤 弘宣、
菅原 万智子、富永 寛隆、中村 傳一郎（WEBにて出席）、福島 隆志、
森 寛、山本 将（委員13名中12名出席）（欠席：八木 佐知男）

（2）事務局

石野事務局次長、他事務局職員9名

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

■ 審議事項（1）

第79回国民スポーツ大会 競技別会期最終（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

<委 員>

8月7日に最終決定ということなのか。

<事務局>

8月7日の開催準備委員会常任委員会で、滋賀県としての最終案を決定する。

■ 審議事項（2）

第79回国民スポーツ大会 自衛隊協力要請基本方針（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

<委員長>

県と会場地市町で、どの業務を担っていくのか。

<事務局>

先日、自衛隊を訪問し、全体的な協力要請内容について説明した。この先、全体的な協定の締結は県が行い、協定に基づく競技別の覚書については、会場地市町と自衛隊師団で交わすこととなる。

<委員長>

すべて会場地市町が行うということではなく、県が全体的な窓口となってマネジメントしてくれるということでのいいのか。

<事務局>

そのとおり。

■ 報告事項（１）

第 79 回国民スポーツ大会 競技役員等養成事業の進捗について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委 員>

県には、競技役員養成のための補助をしていただき感謝している。コロナ禍で養成のための講習会等が実施できず、なかなか厳しい状況であることは確かである。

また、審判資格が取ればいいというものではなく、その後、国スポの審判基準まで育成できるかという課題もある。この資料をまとめてもらうのは大変だったと思うが、これを見て、各競技団体への意識付けをしてもらえればと思う。

<委員長>

そのとおり。資格を取れたらすぐに笛が吹けるというものではない。育成していかなければならないが、なかなか県内で高いレベルの試合が行われないので、課題もある。

このデータを各競技団体へ提供されてはどうかと思うが、その場合スポーツ協会から出すのか。それとも事務局から出すのか。

<事務局>

事務局から各競技団体へ提供する。

<委 員>

障スポの役員養成の状況を知りたい。ボッチャやフライングディスクなど、障スポ大会だけの競技があり、進捗状況を心配している。特にボッチャは、県内で競技会を実施したことがなく、障スポ大会では今回の栃木大会から実施されるということもあり、競技団体が不安に思われている。

先ほどの話にもあったとおり、審判資格が取ればいいというわけではなく、障スポ大会で審判できる技術を身につけることにも苦労されていると思う。中央競技団体や近隣府県からの審判派遣は費用のかかることだが、依頼することも視野に入れながら県内の競技役員を増やしていくことを考えていってほしいと思う。

<事務局>

令和元年度から競技役員養成事業を行っている。対象としている競技は、フライングディスク、ボッチャ、車いすバスケットボール、サウンドテーブルテニス、グランドソフトボールの5競技である。先ほどの話のとおり、大会の開催がなされていない状況なので、この状況を踏まえ、しっかりと取り組ませていただく。

<委員長>

水泳競技の役員養成はどのような状況なのか。

<委員>

コロナ禍で遅れているのが事実。目標数すら出せていないところがある。記録測定機材等の発展により、競技役員数が変わっているところが多々ある。まだ競技運営準備マニュアルでは変わっていないが、その機材を取り入れることにより役員数がかなり少なくなる。そのあたりが精査できていないので、このような数字になっている。報告が遅れ、大変申し訳なく思っている。

なお、障スポの競技役員数は、いつ頃示してもらえるのか。

<事務局>

先催県情報を確認中のため、もうしばらく時間をいただきたい。

<委員長>

機材を扱うにも審判資格がいるのか。

<委員>

審判資格が必要な役員もあれば、審判資格不要の操作員として競技役員資格でまわらない場合もある。例えば、計時員というストップウォッチで計る役員がいる。今は壁に触ればタイムが出るので、その機械が故障したときのバックアップ用として30人必要となっているが、オリンピック並みに映像解析でバックアップができるという設備がある。国体でも、先催県で徐々に取り入れられるようになってきており、それを使うと何十人と減らすことができる。そのため、人数は開催地の機材によって変わってくる。滋賀県はどうかというと、まだ検討できていない。まだ入ってくる機材がわからない。

資格のいる審判でいいのか、資格が不要な競技役員でいいのかというところは、機材によって変わってくるというところをご理解いただきたい。

<委員長>

まだどの程度の機材が入ってくるか不透明ということだったが、ある程度決定しているのか。まだこれから検討されるのか。

<事務局>

プールの所管は草津市なので市で検討されるが、国スポ・障スポに向けて必要な機材についてはこちらからも説明し、しっかりと連携、確保していきたい。

<委員長>

陸上競技では、ハードルを並べるのも審判資格がいるという話を聞いた。要資格の役員数が多いのは、それくらいの数を出しておかないと備品等の準備ができなく

なると聞いている。

■ 報告事項（２）

県外・県市町共催等競技会運営委員会（仮称）の設立について

※ 事務局より説明

【質 疑】

な し

■ 報告事項（３）

令和４年度第１回国民体育大会委員会での決定事項について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

デモンストレーションスポーツにおいて、早く開催される競技はいつから始まるのか。

<事務局>

デモンストレーションスポーツは正式競技・特別競技とは動きが異なっており、昨日の日本スポーツ協会での開催決定をもって正式決定となる。会期については、これから決定に向けて動き出す。今年度、会場地市町と主管団体を集めて県主催で会議を開催しようと思っており、そこで今後のスケジュールや、実施日の希望調査などをしようと考えている。

<委員長>

どうしても正式競技に目がいくが、やはり第 79 回大会を進めるうえで、デモンストレーションスポーツから県内全体が盛り上がっていくムーブメントを作っていくのが非常に大事なところである。そこを連携させて広報してもらいたい。

■ 報告事項（４）

開催に向けた令和４年度取組について

※ 事務局より説明

■ 報告事項（５）

競技運営専門委員会における今後のスケジュールについて

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

現時点で、国スポ・障スポ大会全般にわたり、事務局としての課題はあるのか。

<事務局>

様々な課題があるところもあれば、順調なところもある。昨日開催決定をいただき、会場地市町や各競技団体の皆様も開催に向けて取り組んでいただいている。全く課題がないわけではないが、今のところは概ね順調に進んでいる。

<委員長>

スポーツ協会はどうか。各競技団体の取組は順調に進んでいるのか。

<副委員>

全ての競技が開催3年前となり、躍進期、いよいよ仕上げの時期である。優勝、天皇杯獲得に向けて一生懸命取り組んでいただいているので、その支援をしっかりとしていきたいと思っている。

■ その他

競技運営準備マニュアル（第2版）について

※ 事務局より説明

【全体を通して】

<委員長>

競技によっては、中体連、高体連の先生方が担っていかないと動いていかないというところもあると思うが、中体連、高体連の先生方からは何かあるか。

<委員>

国スポ・障スポ大会に向けて精一杯協力させてもらおう。

<委員長>

各競技団体において、中体連、高体連の先生方が汗をかいておられると思う。その先生方の協力がなければ、動かない競技も多々あるかと思う。そのようなことを理解いただき、皆様方も、広く協力していかなければならないのかと思う。自分の競技ばかりではないという視点が大切ではないか。

<委員長>

WEBにて出席の委員、何か意見があればお願いしたい。

<委員>

意見を申し上げることは特にない。ほぼ順調に進んでいるのかなと思う。

弓道競技では、彦根市スポーツ・文化交流センター（滋賀国スポの弓道競技会場予定地）がようやく完成する運びとなり、来週内覧会が行われる。これから会場に慣れ、競技運営がうまくできるかというチェックに重点を置いた取組をしたいと考えている。

以上